

科目名	家庭基礎		必修 学校必修 選択必修	使用 教材	家庭基礎 つながる暮らし共に創 る未来(教育図書) 生活学 Navi2025 (実教出版)
学年 学級	2 年全クラス	単位数	2	教科 担当	和地 雅美

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	A 第 1 章 生活設計 ・ 自分の将来を見通そう 第 2 章 青年期と家族 ・ これからの人生に向かって ・ 家族・家庭とは何だろう ・ これからの家庭生活と社会	・ 生涯を見通しながら、様々な生活課題に対して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることを理解する。 ・ 青年期の自立について考える。 ・ 家族を取り巻く課題や民法について理解する。
	期末考査 まで	B 第 2 章 衣生活 ・ 衣服のはたらき ・ 衣服の計画と管理 ・ 衣服ができるまで ・ これからの衣生活	・ 衣服の機能や材料について理解し、健康や安全、状況に配慮した適切な衣服を選択できる。 ・ 基礎的な縫製技術を身につける。 ・ 衣服の表示を正しく読み取り、適切な衣服管理ができる。 ・ 入手から廃棄までを意識し、環境に配慮した衣服選択について考える。
2 学 期	中間考査 まで	C 第 1 章 経済計画 ・ 将来の経済計画 第 2 章 消費生活 ・ 消費生活 消費者問題の現状と課題 第 3 章 環境 ・ 持続可能な消費	・ 家計管理の重要性について理解する。 ・ 消費者問題の現状と課題について考え、消費者の権利と責任について理解する。 ・暮らしと環境問題について理解し、環境に配慮した消費行動ができる。
	期末考査 まで	B 第 1 章 食生活 ・ 食べるということ ・ 私たちが食べているもの ・ 安全に食べるために ・ 健康に食べるために ・ おいしく食べるために	・ 自分の食生活を振り返り、課題について考察する。 ・ 日常用いられる食品の栄養素的特質や調理上の性質について科学的視点から理解する。 ・ 調理の基本的な技術を身につける。 ・ 食中毒について理解を深め、健康・安全を考えた食生活ができる。
3 学 期	学年末考査 まで	A 第 3 章 保育 ・ 子どもの成長を見つめる ・ 子どもの生活と保育 ・ これからの子育て環境 B 第 3 章 住生活 ・ 安全な住まい 快適な住まい ・ 住まいの課題と未来の暮らし A 第 4 章 高齢期 ・ 高齢期の心身の変化 ・ 超高齢社会の課題	・ 子どもの発達の特徴や遊びの意義をとらえ、よい保育環境について考える。 ・ 安全で快適な住生活を送るための知識を身につけ、環境にも配慮した住生活を送ることができるようにする。 ・ 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳などを理解する。 ・ 高齢者福祉の現状と課題について理解し、生活を支える制度について考える。

学習のポイント

生活の自立をめざし、自分らしく主体的に生きる力を身に付けましょう。また、社会の課題と生活を結び付けて考え、持続可能な社会を目指して、解決する方法を考えましょう。そして、学習したことを実践しましょう。評価については、授業への取り組み、提出物、考査など総合的に評価します。提出物は必ず出してください。

ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			人間の生涯における生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むために必要な知識と技能を身に付ける。	生涯を通して、家庭や地域、社会における課題を設定し、解決策を講じたり理論的に表現したりする。	様々な人と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭や地域の生活向上を図る実践的態度を養う。	
評価規準			人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。	
A	立高生として目指すべき目標	4	生活を主体的に営むために必要な知識と技能を十分身に付け、それを活用できる。また、問題意識をもち、改善のために努力できる。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を発見し、解決策を適切に見出だすことができる。また、論理的でわかりやすい表現で、活用方法を論ずることができる。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとする態度を身に付けている。また、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうと積極的に行動している。	
B	立高生として求める標準	3	生活を主体的に営むために必要な知識と技能を身に付け、それを活用できる。また、問題意識をもち生活ができる。	家庭や地域における生活の中から、問題を見いだして課題を発見し、解決策を論じ、活用することができる。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとしている。また、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする態度が見られる。	
		2	生活を主体的に営むために必要な知識と技能を身に付けている。	家庭生活から問題を見いだし、解決策を提案することができる。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて寄与しようとする態度をある程度身に付けている。	
C	立高生として初歩的段階	1	生活を主体的に営むために必要な知識と技能を身に付けようとしている。	家庭生活から問題を見いだし、解決策を提案しようとしている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて寄与しようとする態度を身に付けようとしている。	
評価方法			考査・レポート・作品・発表学習・プリントなど	考査・レポート・作品発表学習・プリントなど	レポート・作品・発表学習・プリントなど	
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載する	